

現場の課題にお答えします!

名須川知子理事・副学長に
兵庫県から感謝状贈呈

7月、名須川知子理事・副学長に兵庫県から感謝状が贈呈された。これは、県環境審議会特別委員として環境行政の推進に貢献してきたことに対するもの。名須川理事・副学長は、「兵庫県の環境学習をますます発展・充実させていくように、ということだと思います。今後も教育推進に尽力していきたいです」と語った。



山田錦80周年+加東市制10周年
記念酒ラベルを作成

山田錦生誕80周年と加東市制10周年を記念した日本酒が、地元の神結酒造から発売された。このラベルは大学院修士課程芸術系教育コースのラベル考案チームが担当し、同コースの前芝武史准教授と金度享助教の監修の下、主に1年の儀間文音さんの案で作成した。

☎ 神結酒造 ☎ 0795-48-3011



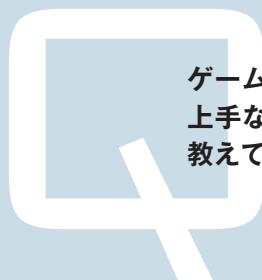
(左から)金助教、岡崎紗佑美さん(修士1年)、儀間さん、前芝准教授

第36回大学院同窓会総会・
研究大会大阪大会を開催

8月6日から2日にわたり、ホテルアウィーナ大阪で開催。22都府県の修生、在学生、大学関係者136人が参加した。6日は教育実践研究活動等の表彰や福田光完学長の講演等のほか、特別企画の落語家の桂吉弥さんによる上方落語「かぜうどん」では会場が大きな笑いに包まれた。7日は大阪歴史博物館や適塾、愛珠幼稚園などを見学した。



キャンパス
トピックス



ゲームとの
上手な付き合い方について
教えてください。



「ゲーム」というと、ネガティブなイメージを抱かれる方も多いと思います。さて、ゲームは本当に子どもに悪影響を及ぼすのでしょうか。

実は、悪影響を及ぼすのはゲームそのものではなく、ゲームにより「会話」が発生しなくなることにあります。近年は携帯型ゲーム機やスマートフォンが登場により、一人でゲームに熱中する姿をよく見るようになりました。確かにこの状態では依存状態になりやすく、ゲームをやめさせることはなかなか難しいでしょう。

私は保護者向けの講演などで、子どもと一緒にゲー

ムをプレイすることを勧めています。ファミコン世代の著者は、よく家族と一緒にゲームをしました。家族と一緒にプレイすることで、ゲームを介して会話が発生しますし、ゲームそのものよりも会話がすごく楽しかった記憶が鮮明に残っています。実は、ゲームにはコミュニケーションを促進するツールとしての可能性が大いにあるのです。

近年、教育現場においてもタブレット端末が導入されるようになってきました。が、考え方は同じです。アプリを単に個別に使わせるのは、決して有効な活用方法とはいえません。なぜなら、

そこにはコミュニケーションが発生していないからです。タブレット端末もゲームも「コミュニケーションを促進するツールの一つ」という意識を持って活用することで、逆に子どもの主体性を引き出すことが可能になります。ただし、使用する前のルール作りが重要！ルールを子どもと一緒に作り、しっかりと守る。これもコミュニケーションですね。コミュニケーションを通して作ったルールは、子どもたちもきっと守ってくれます。

皆さんも一度、「コミュニケーション」の観点でゲームに向き合ってみてはいかがでしょうか。

QUESTION & ANSWER